

2 合同シンポジウム

第3回 合同シンポジウム

概要と目的	3大学の教職員、学生、地域医療人材養成拠点病院関係者、行政が本プロジェクトの意義を確認、相互に交流するとともに、広く地域に対し情報発信する		
日 時	令和7年3月8日（土）9:00～13:00		
場 所	ダイワロイネットホテル和歌山 4階 ブリエ（Zoomによるハイブリッド開催）		
主 催	和歌山県立医科大学		
後 援	和歌山県、一般社団法人和歌山県医師会、公益社団法人和歌山県病院協会、朝日新聞和歌山総局、毎日新聞和歌山支局、読売新聞和歌山支局、産経新聞社、共同通信社和歌山支局、時事通信社和歌山支局、日本経済新聞社和歌山支局、NHK和歌山放送局、和歌山放送、テレビ和歌山、紀伊民報、わかやま新報		
参 加 者	160人（現地86人、オンライン74人）		
次 第			
9:00	開会・挨拶	和歌山県立医科大学 理事長	中尾 直之
9:05	祝 辞	和歌山県知事	岸本 周平
9:10	特別講演①「南海トラフ巨大地震の地震・津波想定はどのように理解すべきか」	講師／穴倉 正展（国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター 連携推進室 国内連携グループ長）	
10:15	休 憩		
10:20	特別講演②「世界の大規模災害の現場から」	講師／國井 修（公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）CEO・専務理事）	
11:20	休 憩		
11:30	取り組み事例報告		
	①「医学部生の防災意識に関する調査研究について」	和歌山県立医科大学 医学部生	
	②「ドローンと配送ロボットを活用した医薬品配送の実証実験について」	和歌山県立医科大学 地域医療支援センター 副センター長	蒸野 寿紀
	③「地域医療教育でのPOCUS（Point of care 超音波）の活用について」	紀美野町国民健康保険国吉・長谷毛原診療所 所長	多田 明良
	④「和歌山県における遠隔外来の利活用について」	和歌山県立医科大学 医学部生	
	⑤「北山村地域医療研修センターの設立と黒潮医療人養成プロジェクトとの連携の可能性について」	国保北山村診療所 所長	内川 宗大
	⑥「県外地域医療人材養成拠点病院での選択制臨床実習の感想」	3大学 医学部生・研修医	
12:55	次回開催地挨拶	高知大学	
13:00	閉会挨拶	和歌山県立医科大学 医学部長	川股 知之

Ⅲ. 事業実施状況報告

参加者内訳

	計	三重	高知	和歌山	その他(不明含む)
医 学 生	71(49)	5(1)	52(48)	14(0)	0(0)
大 学 関 係 者	46(16)	10(6)	8(3)	25(4)	6(3)
高 校 生	4(1)			3(0)	2(1)
地 域 医 療 機 関	15(3)			10(2)	6(1)
県 庁 職 員	9(0)			9(0)	0(0)
その他(不明含む)	15(5)			1(0)	19(5)
計	160(74)	15(7)	60(51)	62(6)	33(10)

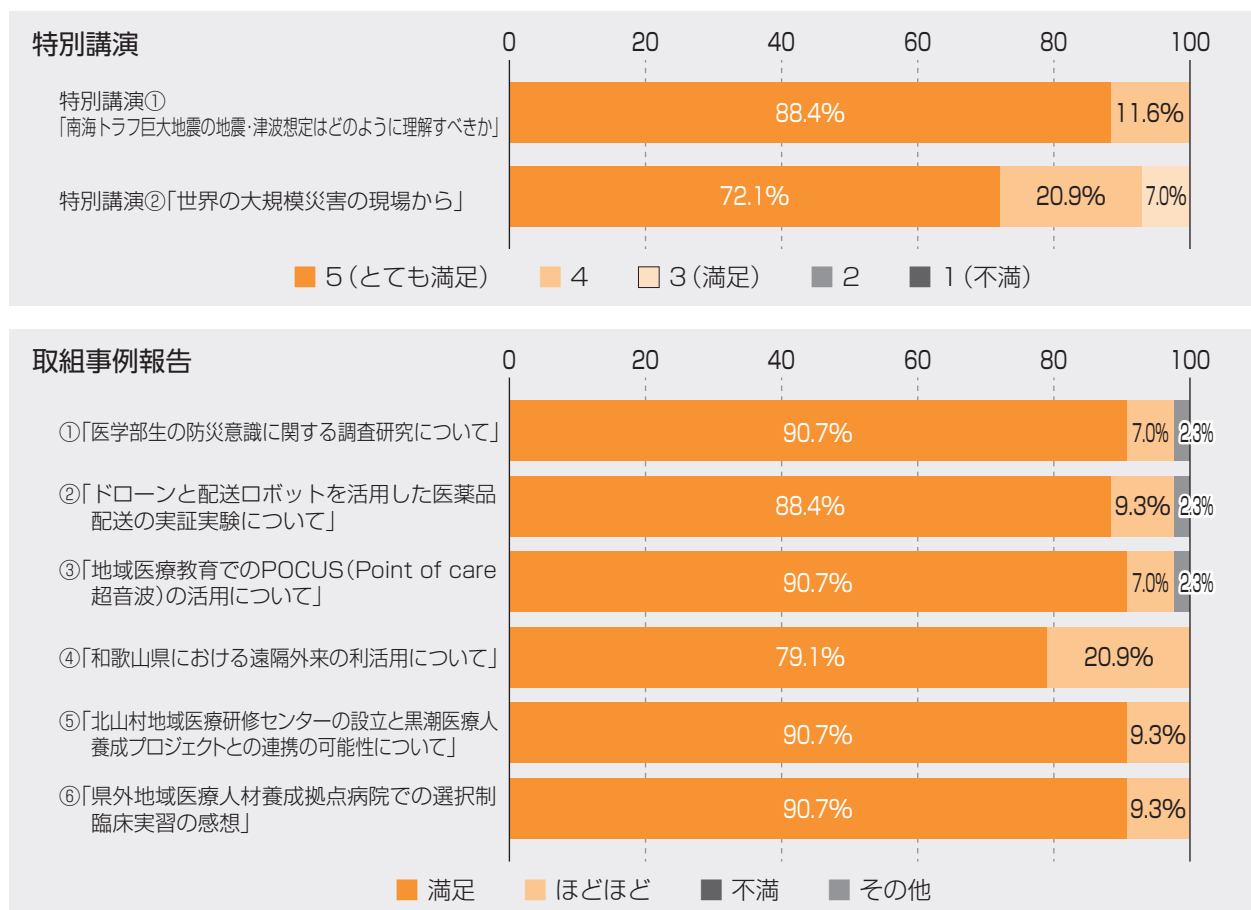
注 ()内はオンライン参加者数

参加者アンケート

回答者 43 人

(医学生 14、医療系学生 1、大学関係者 17、地域医療機関 6、県庁職員 1、市町村職員 1、その他 3)

【各プログラム満足度】



【アンケートより・その他について】

●取組事例報告：ドローン～実証実験について

- ・試験が延期されたとのことがあったように、和歌山県は大変風が普段から強い地域だと思いますので、飛ばなくなる風速等の基準とその場合の代替方法の検討の有無について知りたかったです。

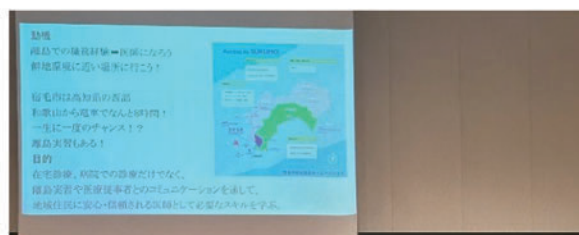
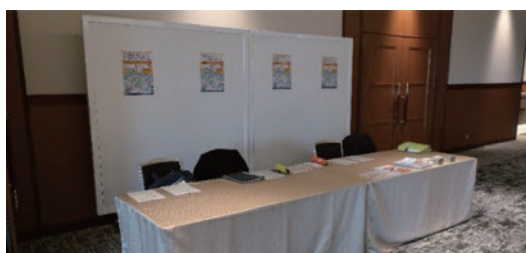
●取組事例報告：地域医療教育での POCUS の活用～

- ・まだ、臨床の授業が始まったばかりですが、エコーを習得することの有用性を感じており、エコーを学べる場所を探しておりました。今回、K-PICS の存在を知ることができ、大変うれしいです。

【シンポジウムの感想についてまとめ】

- 黒潮医療人養成プロジェクトとして、3大学の連携が形になってきた実感がありました。
- 地域医療について大変参考になりました。
- 文部科学省の補助金で行っているとは思えないくらい大きなシンポジウムで驚きました。多くの首長に参加いただくなど運営を行うには大変な苦労があったかと存じます。また教育に関する職員でありますので、学生の発表から非常に多くのことを学んでいることを学びましたし、地域の実習では病院内だけでなく、宿泊施設や地域交通など多くの hidden curriculum が学生に大きな影響を与えていると感じました。補助事業が終了しても是非とも実習並びにその報告のシンポジウムは継続してほしいと感じました。
- 災害など平時とは異なる状況で安定した医療提供のために何ができるのか？日頃の実践を研究として取り扱うことの重要性など学生にとって刺激を受けた様子でした。
- 災害、公衆衛生、地域医療の課題や更なる展開は国民全体で考えていかなければならない事項だと思います。本プロジェクトからぜひ tips を発信。
- ドローンの実証実験は興味深く感じました。海沿いの集落も港が破壊され孤立する可能性が高いと思います。海上を飛行させる実験もご検討ください。

■ 第3回 合同シンポジウム 当日の様子





■ 第3回 合同シンポジウム ポスター



■ 第3回 合同シンポジウム 掲載記事

- テレビ和歌山 NEWS (2025年3月8日配信記事)

新地域医療人材養成へシンポ

2025-03-08(土) 16:44

遠隔地医療の確保や南海トラフ地震の被害といった共通する課題を踏まえ、新たな医療人材を養成しようというシンポジウムが和歌山市で開かれました。和歌山市のホテルで開かれたシンポジウムは県立医科大学が開いたもので、高知大学と三重大学を合わせ、教職員や学生、医療関係者らおよそ170人がオンラインを含めて参加しました。3つの大学は、遠隔地での医療の確保や南海トラフ地震の被害など共通の課題を踏まえ、協同して地域の医療人材を育成しようというプロジェクトを進めていて、シンポジウムはその取り組みの一つとして開かれました。特別講演では、国立研究開発法人産業技術総合研究所の宍倉正展グループ長が、南海トラフ巨大地震と津波の想定をどう理解するかについて話しました。またシンポジウムでは、医学部生の防災意識についての調査研究やドローンを活用した医薬品の配送実験、遠隔外来の利活用といった具体的な取り組み事例が紹介され、参加者らは共通の課題に対する最新の知見を学んでいるようでした。

- NHK 和歌山 NEWS WEB (2025年3月8日配信記事)

和歌山 NEWS WEB**医療従事者が地域課題考えるシンポジウム
和歌山**

03月08日 11時59分



南海トラフ巨大地震や過疎などの地域の課題に医療従事者がどう向き合っていけばいいか考えるシンポジウムが8日、和歌山市で開かれました。

シンポジウムは南海トラフ巨大地震や過疎・高齢化といった共通の課題を抱える和歌山県立医科大学

と高知大学、三重大学の3者が開き、和歌山市の会場には医療従事者などおよそ90人が集まりました。

このなかで、産業技術総合研究所の宍倉正展グループ長が南海トラフ巨大地震の仕組みなどについて講演し、串本町の観光名所、橋杭岩の周辺には津波で運ばれてきたとされる大きな石が数多くあり、過去の災害を調査することが大切だなどと述べました。

和歌山県立医科大学の4年生の学生は「救急医を目指していて、巨大地震が発生した場合に貢献できるよう勉強していきたい」と話していました。

和歌山県立医科大学地域医療支援センターの上野雅巳センター長は「地震や津波について理解を深めてもらい、災害が発生した際、真剣に謙虚に対応できる医療人を養成したい」と話していました。